

IR 室長メッセージ

九州大学インスティテューショナル・リサーチ(IR)室が、平成 28 年 4 月に設置された。大学の諸活動の自己点検・評価とその結果の分析に基づいた改革・改善は、大学の機能強化に不可欠である。このため国立大学法人には、自らが定めた中期目標・計画の達成度に関する法人評価、教育の質保証のための認証評価への対応が法的な義務となっている。本学では法人化以前の平成 13 年に大学評価を推進する評価情報開発室を設置し、その後、業務の拡張に伴って、平成 16 年に大学評価情報室に改組して体制を強化し、「国立大学法人評価」や「大学機関別認証評価」等の業務を担当してきた。大学評価情報室は、このような評価業務には対応できるが、自己点検・評価の結果を分析し、数値指標やエビデンスを伴った定性的な指標に基づいて、大学の改革・改善の推進を支援する機能は殆ど備わっていなかった。九州大学 IR 室は、総長のリーダーシップの下で、戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制の充実を支援する目的で、評価業務に加え、この機能を強化した部署として設置されたものである。

中央教育審議会大学分科会によれば、IR とは、「教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究」とされている。「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」に基づいて改善改革の方針を示すことによって、大学の構成員が、改善改革の必要性を共通に理解でき、また、改善改革の方針への合意形成も進むと考えられる。

このような観点からは、IR 室の最初のそして最も重要な業務の一つは、「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」を集積することである。しかし、言うは易し行は難しである。

これまで大学の各部署には、多種多様で膨大な数のデータが蓄積されてきた。しかも担当部署（時には担当者）が最も収集しやすい形、利用しやすい形、あるいは提出要請先の要求に沿う形などで集積されてきた。さらには、同じ種類の同じ期間を対象にしたデータであっても、データの定義が違っている場合も少なくない。このような状況下では、単にデータの提供元から IR 室が収集しただけでは、「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」にはなり得ない。IR 室設置の直後から、IR 室アドバイザーの助言を得ながら、IR 室員が中心になって、IR 室協力室員や拡充メンバーの尽力のもとで、学内に散在するデータを「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」にするべく集積をしてきた。一方で、データの情報公開には格段の留意が求められる。この点も公開範囲の区分を精査し、データの集積元とも協議をしながら区分けを進めてきた。

この「九州大学 IR 室データ集」は集積したデータの一部ではあるが、大学や各部局等の現状を把握し、改革改善や将来計画作成に利用していただくことを目的に作成されている。データの量・質ともに、以前に発行されていたファクトブック (Q-Fact) に比べると格段に信頼性が向上し、電子データも Web 上で公開し随時更新するなど使いやすくなっている。さらに、大学の研究力分析の一例も掲載しているが、これを参考に部局等は SciVal や Pure を活用して是非自らの部局等の研究力分析を行っていただきたい。

なお、Web 上で公開していることから、ステークホルダーである学外の九州大学を支えているみなさまにも、九州大学の現状をご覧いただき、IR 室がなすべき評価と改革改善支援の機能を充実させるためにも、皆様方からの協力と指導を賜りたい。

本データ集は、IR 室員のご尽力と、IR 室協力室員、拡充メンバー、IR 室アドバイザーのご協力の賜物である。心から感謝申し上げたい。

平成 29 年 11 月 IR 室長 荒殿 誠